

議 事 録 確 認

「2016 大宮地本政策フォーラムの提言」に基づく申し入れの交渉経過において、別紙のとおり確認した。

平成 29 年 6 月 30 日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社
総務部勤労担当部長 原 潔



東日本旅客鉄道労働組合大宮地方本部
業 務 部 長 高橋 孝



[別 紙]

- (組 合) 駅建屋・区所等の新設や改良・改修工事において、工事施工後に使用する現場社員が不便を感じる状況が発生していることから、予算算出立ち会い前に支社関係主管が当該職場の一般社員の意見・要望も把握して構想に反映させた後、関係箇所を招集して立ち会いを行ない、設計側の負担軽減と利用する社員の働きがいを有する環境を整えること。
- (会 社) 改良・改修工事の計画を行う際は、関係箇所を招集し、現地確認を実施しているところである。なお、計画に伴う予算算出は関係主管箇所が事前に確認を行っており、社員の意見等については管理者を通じて把握していく考えである。
- (組 合) 南浦和駅において昨年の駅改修工事以降、休養室の階段、浴室や寝室の壁と天井の間に隙間やヒビ割れが発生している原因を早急に究明し、対策を講じること。また、改修前から不安視していた振動を抑える対策等が改修後も取られていないと感じていることから、社員説明を行い不安を解消すること。
- (会 社) 南浦和駅休養室棟の階段、浴室、休養室の壁等に発生していたヒビ割れについては、壁下地ボードの貼り替えや、防水性や気密性の高い材料での補修を実施したところであり、今後も状況を把握していく考えである。なお、具体的な対策も含め社員への説明を行ったところである。

- (組 合) 南浦和駅の内勤事務室の執務スペースを確保すること。また、執務スペース拡大に伴う間内改良においては職場の声を反映し実施すること。
- (会 社) 南浦和駅の内勤事務室については、既存のスペースの間内改良等、検討を進めているところである。なお、改良にあたっては、管理者との意見交換を通じて実態等を把握していく考えである。
- (組 合) 現業機関における浴室・トイレ・休養室等の設備が老朽化により衛生面で社員が不安を持っていることや作業実態に合わず、休養が取りづらい環境に対する大宮支社の認識を明らかにすること。また、小金井駅において終電対応後の休憩時間のゆとりを確保するために浴室をユニットバス2台とすること。
- (会 社) 職場環境整備については実態を把握し、優先度を踏まえて間内改良等の整備を進めて行く考えである。なお、小金井駅の浴室については、箇所意見等も把握しながら、計画案を策定しているところである。
- (組 合) 蕨駅の水質再調査を行い、悪臭や浴室の錆についての原因究明を行うこと。また、職場の声を基に早急に応急的な対策を行うとともに、抜本的な対策を実施すること。
- (会 社) 蕨駅の水質調査については、法令に則り実施しており、現時点で検査結果に異常は確認されていないが、箇所においても浴室の清掃を行い、対策を行ってきた。なお、引き続き必要な調査を行い、対策を検討していく考えである。
- (組 合) 大宮新幹線保線技術センターの浴室改修計画を具体的に示すこと。また、工事については実務社員の意見を基に改修すること。
- (会 社) 2018年度以降、優先度を踏まえ改修を計画していくところである。なお、改修を行う際は関係箇所と現地確認を行い、意見等を把握していく考えである。
- (組 合) 大宮新幹線電力技術センターの執務スペース拡大計画を具体的に示すこと。また、執務スペース拡大に伴い、休憩スペースの充実を図ること。
- (会 社) 執務室の拡大は2018年度以降、優先度を踏まえ改修を行っていく考えである。また、改修にあたっては関係箇所と調整を図り、休憩スペースについては検討課題としていく考えである。

- (組 合) 女性社員の各種制度の活用実績における成果と課題及び社員の理解を深めるために取り組んできたことを明らかにするとともに、各種制度については制度の理解を深めるため全社員対象に説明を行うこと。また、深夜業免除や育児介護等の各種制度を活用することに不安を持っていることから、個々の状況を面談等により丁寧に把握すること。
- (会 社) 女性社員が幅広い職域で制度を活用すると同時に継続してその能力を発揮できるようにするため、ワーク・ライフ・バランス等の周知を行ってきたところであり、更に社員とのコミュニケーション等を通じて状況把握に努め、仕事と育児・介護の両立支援を行っていく考えである。
- (組 合) 二重安全措置を含めた保安体制を構築するルールについて棚卸しを行ない、安全レベルを低下させずに簡素化できるものは見直しを行うこと。特にパートナー会社の工事管理者等、現場で保安体制を構築する実務者の意見を把握して見直すこと。
- (会 社) 安全に関するルールの見直しは、必要の都度実施してきたところである。今後も安全指導のキーマン、パートナー会社保安担当者等の会議において担当者の意見も踏まえながら問題点を確認し、検討していく考えである。
- (組 合) 今後の安全諸設備新設や導入計画について具体的に示すと共に、各保線技術センターの意見を把握して列車接近警報装置を追加整備すること。また、東北回送線が TC 型列車接近警報装置未導入のため、大宮保線技術センター社員の意見を基に列車接近警報装置を必要箇所に設置すること。
- (会 社) GPS を活用した列車接近警報装置と、新周波数を使用した TC 型無線式列車接近警報装置の導入を今年度に予定している。また、列車接近警報装置の整備等については優先順位をつけ計画的に実施しており、東北回送線への導入は今後の検討課題としていく。
- (組 合) 東日本大震災以降、大宮支社として大規模災害発生時を想定して取り組んできたことを具体的に示し各駅の帰宅困難者の受け入れ施設や広域避難所を明確にすること。また、駅間停車時などを想定した場合の乗務員の対応等、地域と連携を図り社員が安全に行動できる体制を整えること。
- (会 社) 大地震が発生したことを想定した総合防災訓練において、安否確認や非常用発電機の試験実施等を行ってきた。また、地域の帰宅困難協議会にも参加してきたところである。なお、乗務員においては、お客さまを各駅で把握している広域避難所に誘導することになる。今後も地域や消防等と連携を図っていく考えである。

- (組 合) 災害備蓄品の使用目的及び備蓄量を明確にすること。また、現場の判断で使用できるよう現場周知すること。
- (会 社) 備蓄品については雪害等も踏まえ、お客さま用と社員用を一晩分程度配備している。また、使用については箇所判断で行っているところである。
- (組 合) 各系統における現業機関事務の位置づけと今後の人材育成について明らかにすること。また、乗務員区において輸送総合システムの扱いに苦慮していることから、総合研修センター以外での研修開催や研修受講条件の見直しをするなど、実践的に教育が受けられる環境を整えること。
- (会 社) 事務職の育成については各系統のOJT、各種研修等により専門的な業務知識の向上に努めているところである。なお、乗務員区所における輸送総合システムの勉強会については、計画していく考えである。
- (組 合) 実施後に問題点が発生した時は速やかに改善に向けて取り組むこと。
- (会 社) 問題は生じないと考えているが、具体的に提起があれば「労使間の取扱いに関する協約（平成27年10月1日締結）」に則り取り扱っていく。